

「探究の手法を学ぼう④～先行研究・事例を探そう～」

今回は探究活動を行う上でとても大切な「先行研究・先行事例」を探す手段を学びます。プリントNo.3でも、「Standing on the shoulders of Giants」と習ったように、先人たちの積み重ねた学問や技術などがあってこそ探究が深まり、またオリジナリティが生まれます。探究をする上では特に「先行研究・先行事例」を大切にしてください。

1. 先行研究・事例の探し方を学ぼう (テキスト pp.26, 58-61. 参照)

先行研究を探す前に皆さんの周りには身近な情報源がいくつもあります

【身近な情報源一覧】新聞 インターネットニュース 本・雑誌 テレビのニュース
ドキュメンタリー映像 有識者の講義・講演 先輩や他校生徒の論文、発表 など

(テキスト pp.26-28. 参照)

こういった情報源からより専門的な情報を知るために次のようなサイトがあります

○国立国会図書館サーチ (https://ndlsearch.ndl.go.jp/#ndls)



国立国会図書館サーチでは、国立国会図書館の所蔵資料やデジタル資料を検索したり、閲覧やコピーを申し込んだり、様々なサービスが利用できます。また、国立国会図書館とデータ連携している全国の図書館の所蔵資料を検索できます。

○CiNii Research (https://cir.nii.ac.jp/)



CiNii (NII 学術情報ナビゲータ[サイニィ])は、論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報で検索できるデータベース・サービスです。「CiNii Research」では、文献だけでなく研究データやプロジェクト情報など、研究活動に関わる多くの情報を検索できます。

○Google Scholar (https://scholar.google.co.jp/schhp?hl=ja)

	<p>Google Scholar は、分野や出版国を問わず、学術的な文献を幅広く検索したいときに使えるツールです。論文や書籍に限らず、実践報告書や学会発表のスライドなども検索することができます。</p>
--	--

特に3つ目の Google Scholar は、インターネット環境があれば、誰でも無料で使うことができ、論文の全データもダウンロード可能である場合も多いなど、非常に便利なサイトです。ただし内容は玉石混淆 (いろいろな水準のものが混ざっていること) のため、情報の質を評価して使う必要があります。以下に、論文の検索方法のコツを載せますので、参考にしてください。

	①AND 検索	②OR 検索	③NOT 検索
検索範囲	 両方含む	 どちらかを含む	 不要なものを除外
使い方	語句の間にスペースを入れる	語句の間に「△OR△」を入れる	除きたい語句の前に「△-」を入れる
入力例	環境問題 対策	癌 OR がん OR ガン	教育政策 -大学
使いどころ	環境問題の対策について論文を調べたいとき	「がん」についての論文をもれなく探したいとき	「教育政策」についての論文を探したいが、「大学に関する教育政策」についての論文は除きたいとき

※原則として、記号とスペースは半角で入力。OR は半角大文字で入力

(出典:「千葉大学アカデミック・リンク・センターHP」https://alc.chiba-u.jp/eyr/2021/06/09/01scholar.html)

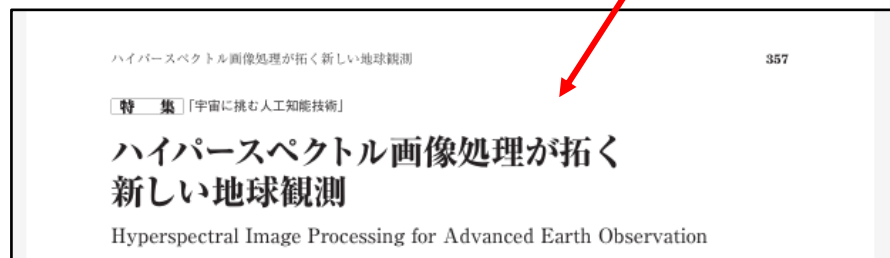
2. **演習** Google Scholar を使ってみよう (テキスト pp.58-61. 参照)

Step1 Google Scholar を立ち上げます。検索画面に、自分の関心領域にあるキーワードを入れてみます。

例) 心理学 医療 , 宇宙 人工知能 , スポーツ科学 子ども etc..



Step2 検索したキーワードを含む論文や事例が複数出てくるので (出てこない場合はキーワードを変更するなど), PDF ファイルを開きます。



(出典：ハイパースペクトル画像処理が拓く新しい地球観測 (< 特集> 宇宙に挑む人工知能技術)

横矢直人, 岩崎晃 - 人工知能学会論文誌 2014 年 29 巻 4 号 p. 357-365)

Step3 『課題研究メソッド』の pp.61 を参考にして、次の表を埋めてみましょう。

検索したキーワード 気になった言葉	
論文名もしくは事例名 (タイトル)	
著者名 (作成組織名) 作成年 (出版年)	
目的 (「何を」明らかにしようとしているのか, 何に役立てようとしているのか, どのような「課題」を設定しているのか)	
研究手法 (「どのような研究方法を用いているのか」)	
出典	